

サイバーセキュリティ対策の一貫で適切なログ管理を EasyBlocks

Network Reporter で実施 – 株式会社エヌ・シー・エヌ

株式会社エヌ・シー・エヌ 様



会社概要

自由度の高い空間デザインと高い耐震性能を実現する木造建築技術「SE 構法」を開発し、同構法を使った木材建築システムの提供を行っている。SE 構法を使った建造物は累計 28,000 棟以上、専門の資格を持つ SE 構法登録工務店は全国 600 社以上にのぼる。

URL : <https://www.ncn-se.co.jp/>

概要

株式会社エヌ・シー・エヌ（以下、エヌ・シー・エヌ）の情報システムを担当する部門（以下、COS 部）では、同社の本社・支店や関連会社の各拠点にあるサーバーやネットワークの運用を担っています。サイバーセキュリティ対策の一貫でルータのログ管理用途に EasyBlocks Network Reporter を採用いただいたため、導入の経緯や効果について COS 部部長 新田和芳氏（以下、新田氏）、企画推進室 課長 石渡玉枝氏（以下、石渡氏）にお話を伺いました。

大地震でも倒壊ゼロの「SE 構法」を提供

1995 年に発生した阪神淡路大震災では、6400 人を超える犠牲者のうち、約 9 割が家屋の下敷きとなり亡くなったと言われています。当時この甚大な被害を目の当たりにした田鎖郁男氏（現 エヌ・シー・エヌ代表取締役社長）は「本来、人の命を守るための家が命を奪うものになるのは絶対にあってはならない」という強い思いから、構造家である播繁氏と共に、高い耐震性能を実現する木造建築技術「SE 構法」を開発。翌年にエヌ・シー・エヌを設立以降、SE 構法を日本全国に広く普及させています。SE 構法は後に起こる東日本大震災や熊本地震でもその効果を発揮し、同構法で建てられた家屋の倒壊はこれまで一棟もないそうです。



集成材と SE 構法専用の SE 金物や S ボルト。SE 金物は、日本の標準地域で約 168 年間、塩害地域でも約 100 年間の使用に耐えられる耐久性をもつ。

全社的にサイバーセキュリティ対策を強化

SE 構法を使った建築を行う工務店は現在 600 社を超えており、エヌ・シー・エヌでは各工務店や施主の個人情報はもちろん、建築物の構造に関連する多くの情報を取り扱っています。

エヌ・シー・エヌの COS 部では、同社の本社・支社、グループ会社など複数拠点のサーバーやネットワークの運用を担っていますが、昨今サイバー犯罪の手口が巧妙化してきていることや情報漏洩のリスクを軽減するべく、経済産業省の策定する「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」に基づき、セキュリティ対策の強化を行いました。

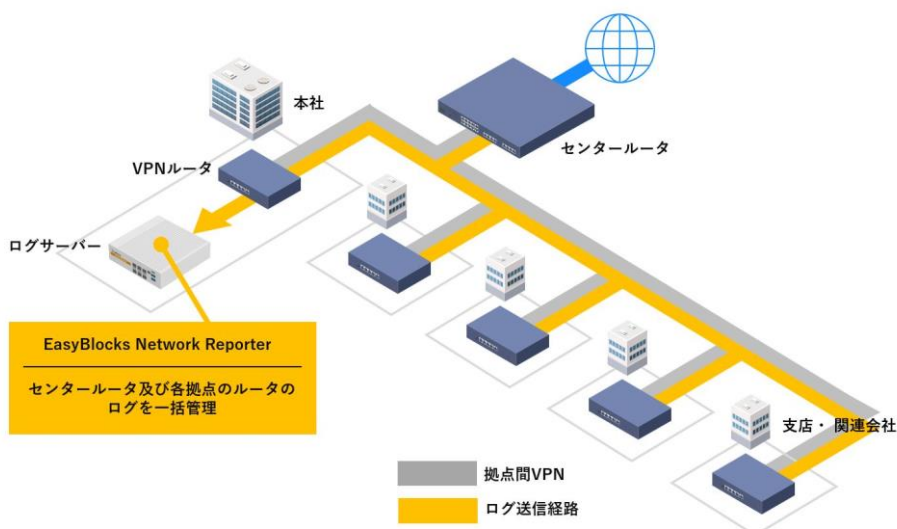
具体的な強化の内容は UTM のリプレイスや EDR の導入、パソコン端末のログ管理の導入、ルータを始めとするネットワーク機器の遠隔監視の仕組みの導入など多岐に渡りますが、そのうちネットワークログの採取・管理の手段として採用した製品が「EasyBlocks Network Reporter」でした。

各ネットワーク機器の記憶装置に頼らずログを集中管理

セキュリティ対策の強化を行う前から、ログの長期保存の重要性は分かっていたため、エヌ・シー・エヌではルータのログは本体の外部メモリ保存機能を用いて SD カードへログを保存していたといいます。しかし、SD カードの障害によってルータの動作に支障が出るケースもあったことから、ネットワーク機器のログを一括管理可能なログサーバーの導入を検討していたところ、EasyBlocks Network Reporter を見つけたそうです。

EasyBlocks Network Reporter はルータや AP・UTM などの各種ネットワーク機器の Syslog 形式のログ収集に対応したアプライアンス製品です。さらに、ヤマハ製の RTX/NVR ルータのネットワークの稼働状況を日々レポートする機能も備えています。もともと各拠点でヤマハ製ルータを多数活用していたことから、ログ管理の手段として EasyBlocks Network Reporter の導入が最適と判断したとのことでした。

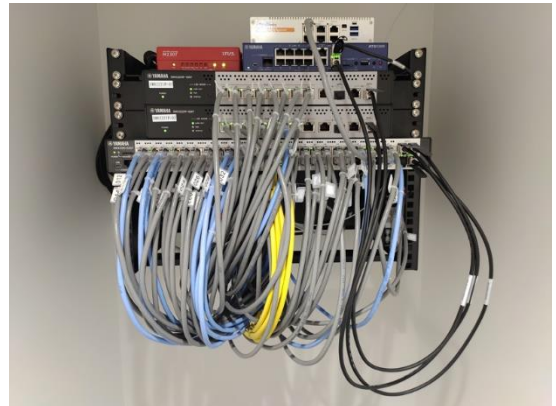
EasyBlocks Network Reporter の導入により、各拠点のルータのログを一括で集中管理が可能になった事に加え、重要なログが発生した際は管理者へメールで通知するよう設定されています。「何かトラブルがあったときにまずは EasyBlocks Network Reporter に蓄積されたログを見に行けば良い、という安心感がありますね」と新田氏は話します。



全社的な情報セキュリティ意識向上を目指す

エヌ・シー・エヌでは今回、大規模なサイバーセキュリティ対策の強化を行いました。ヒューマンエラーを防ぐことも同様に重要だと新田氏は話します。「社内の各メンバーがサイバー犯罪に巻き込まれるリスクを自覚し、IT を利活用する際に慎重に行動することが不可欠です。そのためには、定期的な社員向けの教育プログラムを設け、経営陣を含めて、自社がどのようなセキュリティ対策を講じているかを広く周知し、情報セキュリティの意識を向上させる必要があると考えています。それが結果的にヒューマンエラーの防止や、サイバー犯罪被害の抑止につながると考えています。」（新田氏）

また、今後の新たな取り組みとして、EasyBlocks Network Reporter のルータ稼働状況を日々メールする機能を活用し、通常はネットワークの状態を意識していない人々に対しても定期的にレポートを送ることで、普段意識しないネットワークの健康状態を意識する習慣づけを行うなど、今後の取り組みについても話してくれました。



本社に設置されている
EasyBlocks Network Reporter(写真上段)



COS 部 部長 新田和芳氏(右)
企画推進室 課長 石渡玉枝氏(左)

関連 URL

株式会社エヌ・シー・エヌ

<https://www.ncn-se.co.jp/>

製品情報 EasyBlocks Network Reporter

<https://www.plathome.co.jp/product/easyblocks/networkreporter/>